



模擬試験を終えて

河合塾の一回目の模試が終わりました。全統記述模試は3回しかありませんから、入試本番までの大事な1回が終わってしまったわけです。残りは二回。こう考えると、いかに本番までの練習試合が少ないかわかるでしょう。何度も書いてきましたが、もちろん赤本などを使って、自分で設定して試験をすることはいくらでもできるのでありますが、多くの受験生は、結局、緊張感と真剣さをもって勉強するのは、模擬試験しかないようです。中には、「本番」の受験を通して実力をつけていく生徒もいますが、この生徒が模擬試験をもっと受けていたなら、もっと順調に成績を伸ばしていたことでしょう。したがって模擬試験は何度も繰り返すように、受けるだけでも意味があるのです。今後の希望者模試などもできるだけ多く受け、真剣にわからない問題に向き合う機会を持ちましょう。

復習の必要性

とはいえ、模擬試験を解いたばかりの状況は、「問題集を解いて解説を読んでいない」状況に似ています。「分析」は結果を見てやるものだと思いますが、結果がくるまでまだ1ヶ月以上あるわけです。練習試合の悪かったところを、反省せず、1ヶ月普通の練習をするのは、かなり問題があると思いませんか。「問題集を解かずに解説を読んでわかった気になっている」のに比べれば、「問題集を解いて解説を読んでいない」状況はましな気がします。しかし、できなかった所を強化する意志がなければ、いくら一生懸命練習試合に臨んだとしても、意味がないような気がします。もちろん、忘れないうちに次の試合が来れば、きっと体が覚えていくでしょうが、次の模擬試験が3ヶ月後だとするなら、反省がなければきっと忘れてしまうでしょう。というわけで、模擬試験後の流れをまとめましょう。

ステップ1 もう一度最初から問題を解く

幸か不幸か君たちの手元には自分の解答がありません。したがって、まず、自分の解答を作り直してみましょう。もちろん、この3日間に言われるまでもなく復習していたとしても気にせず、まず解答を作りましょう。

ステップ2 教科書や参考書、ノート、辞書を使って完全な解答を作る

答えを見て、○や×をつけることは、簡単にできるでしょう。しかし、君たちが、なぜ、その問題ができなかったかを考えることはとても重要です。君たちはそれを勉強していたのか。勉強しながら忘れていたのか。ここまでは必要ないと思って軽視したのか。どこに書いてあるかわからないぐらい勉強すべきものに入っていないのか。こうしたことをこの作業をしながら、チェックすることができます。この作業の中で、日頃の自分の勉強の欠点、足りないものを浮き彫りにしましょう。もちろん、最初の解答とは色を変えておくといよいでしょう。

ステップ3 解答・解説を読む

ここで、解説を読みましょう。その際、二つのことに気をつけてください。

① 部分点をきちんと採点すること

解答解説にはそうしたヒントが書かれています。(実際の部分点、採点基準は、模試返却資料にあります。)部分点が正しいかどうかはともかく、必要な採点要素がわかっているかどうかは、正しい解答が作れるかどうかの大きな分かれ目です。Aという言葉に対し、Bという言葉が言い換えとして適切か、あるいはCという要素は解答に必要でそれが入っている

るかどうか、ということが意識されなければ、特に記述を課す大学では合格ラインにのることはないでしょう。採点要素を意識することが、正しい解答を作ることに繋がります。

② 問題になっていない部分もしっかり理解すること

模試の解説では、全文訳や選択肢の訳まで与えられています。したがって、本文を読んでいてあやふやだったところを全て復習すべきです。問題になったところだけが重要ではありません。難関大学の問題では、問題そのものは単純でも、その根拠となる部分の理解に重きがあることがよくあります。そもそも、違う人が作れば、問題の聞き方や問題にする箇所は違ってくるはずです。たまたま理解しているところが出ただけで、理解していなかったところが出ていたら…。しっかり復習していきましょう。

以上のような作業を、科目ごとに繰り返すのがいいでしょう。つまり、ステップ1を全科目一気にやるのではなく、英語の問題を解く→参考書を使って答えを導く→解答を見て理解する、次の科目に移る、という流れにしていけばよいと思います。

1日1科目として、東大受験者で5科目、たいていは理系4科目、文系3科目でしょうから、1週間で終わります。もちろん、他の勉強ができない分足踏みする感覚があるかもしれませんが、「練習試合をして反省せず、違う練習をしている」ことに比べれば、「まず練習試合の問題点を確認する」ことが重要であるのは言うまでもないでしょう。今週はまず、試験の解き直しからはじめましょう。駿台模試を受験する生徒は、そうした一連の流れこそが、試験対策になっていることでしょう。

計画を見直す

目標達成シートを配りました。2週間の書き直しはしっかりできているでしょうか。有言実行シートは定期試験をとりあえずのりきるために作ったものです。とにかく最低でもいくつかのことをやって試験に臨む、ということです。目標達成シートは、目標から逆算して必要なことを適切にやるためのシートです。定期試験を軽視していいわけではありませんが、定期試験があるからといって、定期試験だけに頭が切り替わり、定期試験をただのりきる、たとえば、全文を暗記するようなことを2週間するのはもはや時間の空費です。試験はあと3回。つまり1ヶ月半もの時間を、意味のない学習に費やしてはいけません。つまり、定期試験も受験勉強と同じリズムの中に組み込むべきです。仮に、「定期試験が入試よりやさしい」としても、応用問題を切り捨てるような学習は無意味です。たいていの科目はかなり入試を意識して作問されていますから、受験勉強のリズムの中で、試験範囲を特に留意して行うのがよいでしょう。

それでも目標が「定期試験」ばかりに向いて、「模擬試験」で浮き彫りになった課題が軽視されているのは大きな問題です。定期試験が仮に、選択が多く、語句を聞く試験だとしても、記述、論述の弱い生徒はそうした分野の強化を計画にいれなければ、合格ラインにはとどきません。目先の利益でなく、模擬試験の反省をもとに、計画を見直すようにしてください。目標達成シートは受験ベースです。優先して計画を立てましょう。

センターと2次・私大をわける

今回の試験は2次・私大をベースに科目選択をし、センター科目については希望でした。本来、2次・私大は記述模試、センターはマーク模試で追っていくのが普通です。しかし、残念なことに先日行われたマーク模試では全体で100名程度しか受けていないようです。特に本来140名程度が希望しているはずの、理系で受験者が少なく、私大志向の文系の方が受験者が多い状況でした。成績を考えてみても理系の現実逃避傾向が見えます。こうした状況の中では、記述模試でもよいのでセンター科目を受験するということが起こると思いますが、センター試験対策がおろそかになっていることは否めません。センター試験は何度も説明しているように、例年、形式や配点が変わらない特殊な試験だからです。

次のマーク模試は7月下旬です。ここまで、チェックをせず、したがって学習状況が変わらず、当然悪い成績をとり、夏休み中にあきらめる生徒が一定数いるのです。こうしたことを防ぐためにも、センター対策として、どこかで問題集を決められた時間で解き、今回と同じように復習し、対策を立てることが重要です。もちろん、両方で使う科目もありますが、たとえば、

理系の数学は授業でⅢCを中心にやっているわけですが、今回の模試やマークではⅠAⅡBが問われました。こういう時ぐらいはしっかり復習することが大事です。逆にいえば、本来の現在の学習の中心はⅢCであるべきなのです。したがって、まだⅠAⅡBの復習をしていない、おろそかにしている生徒は大至急行っておいつかなければいけません。

優先科目を考える

こうしたことを意識した上で、今、自分が優先してすべきことを考えましょう。いくら、センター試験だけで使う科目、文系の数理、理系の国社が低い、といっても、配点を考えれば、どれだけ主要科目が重要であるかがわかるはずです。まず、志望校の配点、国立大学であれば、センター+2次の得点と自分の現状を比べて、優先順位をつける必要があります。この優先順位を決して間違わないでください。結論からいえば、センター科目は優先順位が低いわけです。だからといって、勉強しない、弱点をつかんでいないようでは困るというのが、さきほどの話です。だからこそ、模試ぐらいは受けておく必要があったのです。

次の2点には特に気をつけましょう。

① 全科目をやることがベースであること

当たり前のことですが、優先順位をつけることとやらない科目、後回しにする科目を作ることは違います。たとえば、理系でいくら数理英が重要だとしても、古典をやらずにセンターでこければ、「足きり」で終了です。勉強の時間配分が変わるのであって、捨てる科目を作ることはありません。

② 基礎、基本が大事でも、範囲を全部やらなければいけないこと

合格するためには、全ての範囲を終わらせなければいけません。しかし、たとえば数学ⅠAやⅡBができていない人がⅢCを理解できるはずはありません。中学校の英語が理解できていなければ、高校の英語がわかるはずがありません。勇気を持って復習しなければなりません。しかし、だからといって、夏休みかけて中学校の英語をやっているようでは、ある一定のレベルの大学に受かることはないのです。「本来、〇〇をやっている時期に基礎をやっている」危機感を持ってください。もちろん、基礎から始めるしかありませんが、簡単な基礎をのんびり繰り返していれば合格するわけではないのですから、中長期計画の中で、全部の範囲が終わるようしっかり計画を立てましょう。

優先順位の確認

文系 ①数学・英語・社会 ②古典・漢文 ③現代文 ④理科・社会センター

※ただし、③現代文まで確実に学習リズムに入っていること。現代文は時間がかかる科目であり、早稲田の合否をわける科目なので、5月から一定数をこなすこと。

理系 ①数学 ②理科(2次・私大) ③英語 ④理科(センター) ⑤古文・漢文 ⑥社会(地理) ⑦現代文

※理系は数学、理科の問題演習量を増やすこと

※東大受験者は国語、特に現代文の比重を英語の次までもっていき、定期的になすこと

チーム30期 鉄の掟 FIVE

その1 放課後、空き時間の教室、演習室では友達との会話禁止。

友達との会話は勉強のことでも廊下で！

その2 午後は、毎時15分～25分が休み時間。質問であっても、原則この時間に！

その3 メールの返信は3回まで。それ以上の返信は禁止。

その4 メールチェックも22時15分までは、毎時15分～25分に限る

その5 22時25分以降も、相手の学習計画を確認せずメールすることの禁止。

だいたい「朝カツ」派がふえてきましたね。教室で黙々と勉強している雰囲気もより強くなりました。学校の仲間と、チーム30期の仲間と、ともに学習していきましょう。

30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力
やるべきことを「具現化」する力
他者を「理解」し、「理解される」力

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。



今後の予定

5月26日(木)	40分短縮授業・避難訓練予定	LHR	ECONあり
5月28日(土)	授業なし・駿台模試(申し込み忘れていた受験希望者は早川まで)		
6月2日(木)	中間試験	～6月7日(火)	
4日(土)	授業なし	=11日(土)との振り替え	
9日(木)	ECONあり	11日(土)	授業日
15日(水)	千葉県民の日	=休業日	
16日(木)	ECONあり	18日(土)	授業日
23日(木)	ECONあり	25日(土)	授業なし
30日(木)	ECONあり		
7月2日(土)	授業日		